

災害・鯰絵・疫病除け

江東区深川江戸資料館

「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるほど江戸の町に火事はつきものでした。なかでも振り袖火事（1657年）、お七火事（1682年）などは有名です。火事以外にも地震・大水・疫病・火山の噴火など江戸の人々を襲った災害の数は数えきれません。そして、江戸でひとたび災害が起きると人工の過密化や地形、衛生上の問題などからその被害は大きくなるが多かったようです。しかし災害というものを嘆き悲しんで途方に暮れているばかりではありませんでした。「瓦版^{かたばん}」を作って情報を売買したり、芝居や落語の題材として取り上げたり、また幕末には地震が世直し騒動のきっかけとなったり、災害が契機^{きげん}となり活性化されたものもあるのです。さらに、鯰が地震の原因と考えたり、疫病除けにおまじないをするなど今の人々とは違う捉え方をしていたことも当時の資料からわかります。

今回は江戸の人々が災害とどのように向き合っていたのか、災害との関わりの中で生まれた「文化」・生活習慣の一部を紹介します。

1 深川と災害

深川は、埋立地という土地柄もあり大水には最近まで悩まされてきました。隅田川以東の江東地域の特徴は、広い意味で利根川河口に位置してい



洪水「安政風聞集」

ることから、勢いの強い洪水が発生するのではなく、徐々に水位が上がりやがて引いていくという穏やかな形の水害だったことです。しかし、寛保2年（1742）や天明6年（1786）の大水は水の勢いもあり大きな被害を受けています。

火事では江戸の十大火事と呼ばれるものの内では、4回の被害がありました。1855年の地震火事は地震による多発型の火事でしたが江東地区からの出火が最も多くなっています。明暦の大火（1657年）後は幕府の政策もあり、火事を避けて江戸市中から深川へ寺院や木場の材木置場が移転されましたが、それは深川に火災がなかったということではないのです。

地震では、安政の大地震（1855年）があります。下町を震源とした直下型地震であったといわれ、下町のなかでも特に深川は突出した死傷者数を出しました。

なお、江東地区の災害については『江東区史・上巻』（1997、江東区）を参照ください。

2 地震と鯰絵^{なげえ}

江戸時代も文化文政の頃になると地震や火事などの災害時に瓦版という形での情報化が盛んになされるようになりました。それらは単に出火元や被害状況を知るためだけでなく、当時の社会情勢等と結びついた内容で出回り、人々の間で噂の種となり様々な解釈を生んでいきました。

「鯰絵」もその中の一つでした。絵の内容は、鯰が地震を引き起こした、あるいは予知をするという俗信に基づいて、鯰と地震そして人々の反応を表現したものとなっています。

例えば鯰絵①は、鯰が大判小判を吹き出している絵ですが、そこには地震そのものは災いなのだがそれによる経済的な潤いもあることを表しているのです。この経済的効果は特に職人層に大きか

ったようで「職人が なまづでうまく 酒を呑み」などと詠まれています。



鯨絵① 「大鯨江戸の賑わい」

また、鯨が暴れるのは鹿島神宮にある要石かがいしが緩んだときであるとされ、鯨絵②はその要石＝神の力によって操られている鯨が登場しています。こ



鯨絵② 「世八安政民之賑」

れは単に鯨が暴れて地震を引き起こしたというのではなく、鯨が暴れた背景には神の存在があり神が鯨＝地震をもって人間を戒めたという意味が描かれているのです。

この他にも、地震と「世直し」とを結びつけて考える風潮を図案化した鯨絵もあります。

このように一口に鯨絵といってもその内容は様様で、それらは当時の人々が地震をどう捉えていたのかを知る上での貴重な資料となります。

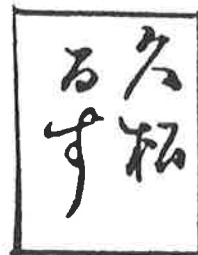
3 疫病とまじない

流行病も江戸の人々が恐れていたものの一つです。特に天然痘・はしか・コレラ・インフルエンザ・結核は死亡率も高く、多くの人々の命を奪いました。そして現在のように医学が進歩していなかったためまじないなど迷信的な神頼みに頼る部分が大きかったのです。

疱瘡神ほうそうの信仰もその一つで、江戸では雑司ヶ谷の鷲大明神をはじめ25社あり、赤絵と呼ばれる疱瘡除けの護符(＝疱瘡絵)が売られました。

またインフルエンザが流行ると、人々は浄瑠璃や芝居などの世事に因んだ名称を付けて「お駒風邪」や「お染め風邪」(芝居の「お染め久松」から)などと呼んだりしました。そして、例えば「お染め風邪」の時には、お染めの相手方久松が留守であるという札を玄関先に貼って風邪が家内に入ってこないおまじないをするなど、趣向を凝らしたようなものまでありました。

この疫病除けにまつわる話は『露休しかた咄』などの噺本に笑い話として収められています。



展示室長屋
秀次の玄関に
貼られているお札

以上、鯨絵・疫病除けと、江戸の人々と災害の関わり方の一面を上げてみました。そこからはたびたび災害に見舞われながらも、その中を生きぬく庶民の姿を見ることができます。